

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4349917号
(P4349917)

(45) 発行日 平成21年10月21日(2009.10.21)

(24) 登録日 平成21年7月31日(2009.7.31)

(51) Int.Cl.	F 1
B 6 5 D 5/66 (2006.01)	B 6 5 D 5/66 3 O 1 J
B 6 5 D 5/54 (2006.01)	B 6 5 D 5/54 3 O 1 M
B 6 5 D 77/30 (2006.01)	B 6 5 D 77/30 B
B 6 5 D 83/02 (2006.01)	B 6 5 D 83/02 Z

請求項の数 1 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2004-6453 (P2004-6453)	(73) 特許権者	000115980
(22) 出願日	平成16年1月14日 (2004.1.14)		レンゴー株式会社
(65) 公開番号	特開2005-200037 (P2005-200037A)		大阪府大阪市福島区大開4丁目1番186号
(43) 公開日	平成17年7月28日 (2005.7.28)	(74) 代理人	100074206
審査請求日	平成19年1月10日 (2007.1.10)		弁理士 鎌田 文二
		(74) 代理人	100084858
			弁理士 東尾 正博
		(74) 代理人	100087538
			弁理士 鳥居 和久
		(72) 発明者	西川 洋一
			東京都葛飾区小菅4丁目2番15号 レン ゴー株式会社葛飾工場内
		審査官	石田 宏之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ヒンジ開閉箱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前板 1、一対の側板 2 及び後板 3 を継代 4 を介し接続して周壁をなし、底板 5 及び天板 6 を閉じて封緘し、前板 1 に幅方向の切目線 9 を、両側板 2 に前後方向の切目線 10 を、後板 3 に幅方向のヒンジ線 11 をそれぞれ入れて、その下方部分及び上方部分をそれぞれ身部 15 及び蓋部 16 とし、切目線 9、10 の切断に伴い、身部 15 に対して蓋部 16 がヒンジ線 11 を軸に開閉するようにしたヒンジ開閉箱において、後板 3 の内面に継代 4 を貼着し、継代 4 を切り込んでヒンジ線 11 より上方へ突出する舌片 12 を設けると共に、後板 3 を切り込んでヒンジ線 11 より下方へ突出する舌片 13 を設け、蓋部 16 を開けると、後板 3 の舌片 13 の先端が継代 4 の舌片 12 に当接して、蓋部 16 が戻り止めされるようにしたことを特徴とするヒンジ開閉箱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、蓋部を開放状態で固定できるヒンジ開閉箱に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、スティック状の菓子を包装する箱として、図 6 に示すように、前板 51、一対の側板 52 及び後板 53 を継代 54 を介し接続して周壁をなし、底板 55 及び天板 56 を閉じて封緘し、前板 51 に幅方向に延びる平行な 2 本のジッパ形切目線 57 を入れると共に

、両側板 5 2 に前端から後端へ向けて斜め上方に延びる切目線 5 8 を入れ、後板 5 3 に幅方向に延びるヒンジ線 5 9 を入れて、その下方部分及び上方部分をそれぞれ身部 6 0 及び蓋部 6 1 とし、切目線 5 7, 5 8 の切断に伴い、身部 6 0 に対して蓋部 6 1 がヒンジ線 5 9 を軸に開閉するようにしたヒンジ開閉箱が使用されている。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、上記のようなヒンジ開閉箱では、蓋部 6 1 を開いても、手を離すと、ヒンジ線 5 9 の折曲が反発で戻ろうとして、蓋部 6 1 が閉じてしまうため、身部 6 0 から菓子を取り出しにくいという問題がある。

10

【0004】

そこで、この発明は、蓋部を開放状態で固定でき、内容物を容易に取り出せるヒンジ開閉箱を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記課題を解決するため、この発明は、前板、一对の側板及び後板を継代を介し接続して周壁をなし、底板及び天板を閉じて封緘し、前板に幅方向の切目線を、両側板に前後方向の切目線を、後板に幅方向のヒンジ線をそれぞれ入れて、その下方部分及び上方部分をそれぞれ身部及び蓋部とし、切目線の切断に伴い、身部に対して蓋部がヒンジ線を軸に開閉するようにしたヒンジ開閉箱において、後板の内面に継代を貼着し、継代を切り込んでヒンジ線より上方へ突出する舌片を設けると共に、後板を切り込んでヒンジ線より下方へ突出する舌片を設け、蓋部を開けると、後板の舌片の先端が継代の舌片に当接して、蓋部が戻り止めされるようにしたのである。

20

【発明の効果】

【0006】

この発明に係るヒンジ開閉箱では、上記のように、継代と後板に設けた舌片の当接により、蓋部を戻り止めて、開放状態で固定することとしたので、身部から内容物を容易に取り出すことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

以下、この発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

30

【0008】

このヒンジ開閉箱は、図 1 に示すような板紙製のブランクから形成される。このブランクでは、前板 1 の両側に側板 2 が連設され、一方の側板 2 に後板 3 が、他方の側板 2 に継代 4 がそれぞれ連設されている。前板 1 及び後板 3 の下縁には底板 5 が、上縁には天板 6 がそれぞれ連設され、各側板 2 の上下縁には折曲片 7 が連設されている。

【0009】

前板 1 には、中央部に下向き円弧状の切目を入れて押込片 8 が形成され、押込片 8 の両端から側板 2 との境界へかけてジッパ形切目線 9 が入れられている。各側板 2 には、切目線 9 の終端から後板 3 及び継代 4 との境界へ向けて斜め上方に延びる切目線 1 0 が入れられ、後板 3 には、切目線 1 0 の終端から幅方向のヒンジ線 1 1 が入れられている。

40

【0010】

継代 4 には、ヒンジ線 1 1 より上方へ突出する舌片 1 2 が、後板 3 には、ヒンジ線 1 1 より下方へ突出する舌片 1 3 がそれぞれ切込により設けられている。また、継代 4 には、舌片 1 2 の鎖線で囲んだ部分 a にのみ、糊が付かないようにニス塗布されている。さらに、側板 2 には、切目線 1 0 の上方に Y 字形の折目線 1 4 が入れられている。

【0011】

上記のようなブランクを組み立てて、スティック状の菓子を包装するには、図 2 に示すように、前板 1、一对の側板 2 及び後板 3 を菓子を包み込むように角筒状に折り曲げ、後板 3 の内面に継代 4 を貼着して周壁をなし、折曲片 7 を内側へ折り曲げ、底板 5 同士及び

50

天板 6 同士を貼り合わせて封緘する。この組立状態において、切目線 9, 10 及びヒンジ線 11 の下方部分は身部 15 となり、上方部分は蓋部 16 となる。

【0012】

このように封緘した箱を開封する際には、図 3 及び図 4 に示すように、押込片 8 を押し込み、その抜出穴に指を入れて、切目線 9 を両側方向へ切断し、切目線 10 を後方へ切断して、身部 15 に対し蓋部 16 をヒンジ線 11 を軸として開く。

【0013】

このとき、舌片 12 は、部分 a のニスにより後板 3 に糊付されていないことから、後板 3 から分離して起立し、蓋部 16 の回転に伴い、後板 3 の舌片 13 の先端が継代 4 の舌片 12 を押圧して前方に撓ませ、蓋部 16 の回転角が 90° を超えると、継代 4 の舌片 12 が弾性により復元し、蓋部 16 が戻り止めされる。

10

【0014】

このように、上記ヒンジ開閉箱では、蓋部 16 を 90° 以上開くだけで、蓋部 16 が開放状態で固定されるので、身部 15 の開口部から菓子を容易に取り出すことができる。

【0015】

また、残存した菓子を保存しておく場合には、図 5 に示すように、側板 2 を折目線 14 沿いに押し縮めるように折り曲げ、蓋部 16 の下部を身部 15 の上部に入れると、身部 15 と蓋部 16 の前部同士が係合するので、蓋部 16 を閉止状態に保持することができる。

【0016】

さらに、再度開封する場合には、押込片 8 の抜出穴に指を入れて、蓋部 16 を容易に開くことができる。

20

【0017】

なお、このヒンジ開閉箱の製造に際しては、継代 4 及び後板 3 をそれぞれ切り込んで舌片 12, 13 を形成しているので、材料となる紙シートの使用量が従来のものより増加することなく、製函時に特別な作業が必要になることもない。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図 1】この発明の実施形態に係るヒンジ開閉箱のブランクを示す図

【図 2】同上の封緘状態を示す斜視図

【図 3】同上の蓋部を開いた状態を示す斜視図

30

【図 4】同上の拡大縦断側面図

【図 5】同上の再封緘状態を示す斜視図

【図 6】従来のヒンジ開閉箱の開封状態を示す斜視図

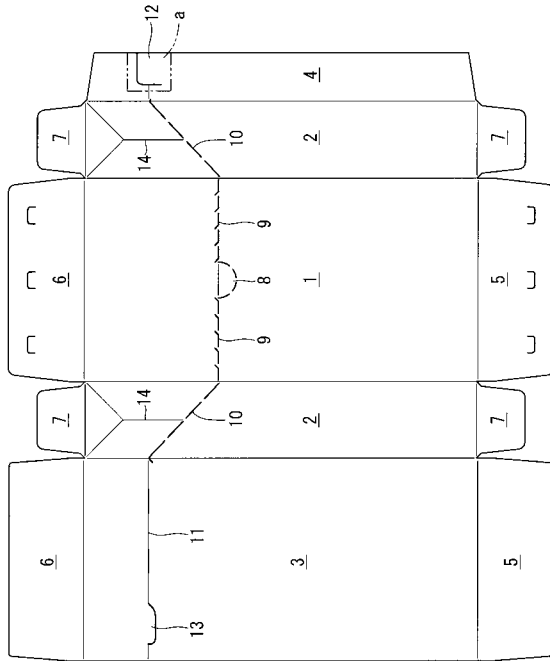
【符号の説明】

【0019】

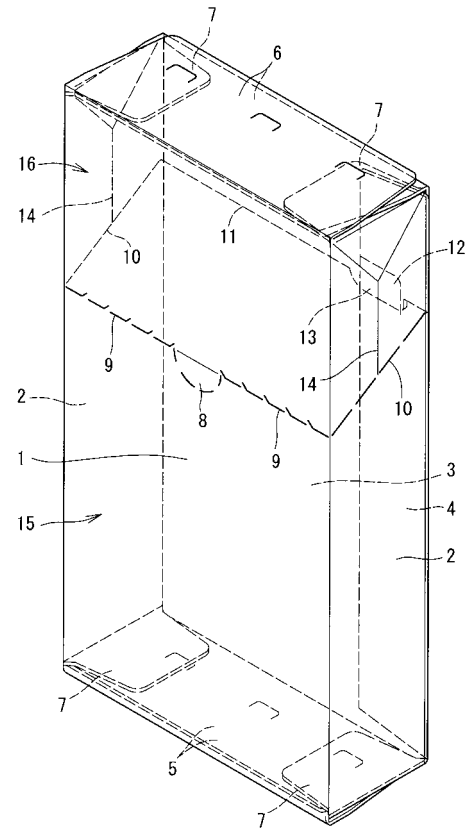
- 1 前板
- 2 側板
- 3 後板
- 4 継代
- 5 底板
- 6 天板
- 9, 10 切目線
- 11 ヒンジ線
- 12, 13 舌片
- 14 折目線
- 15 身部
- 16 蓋部

40

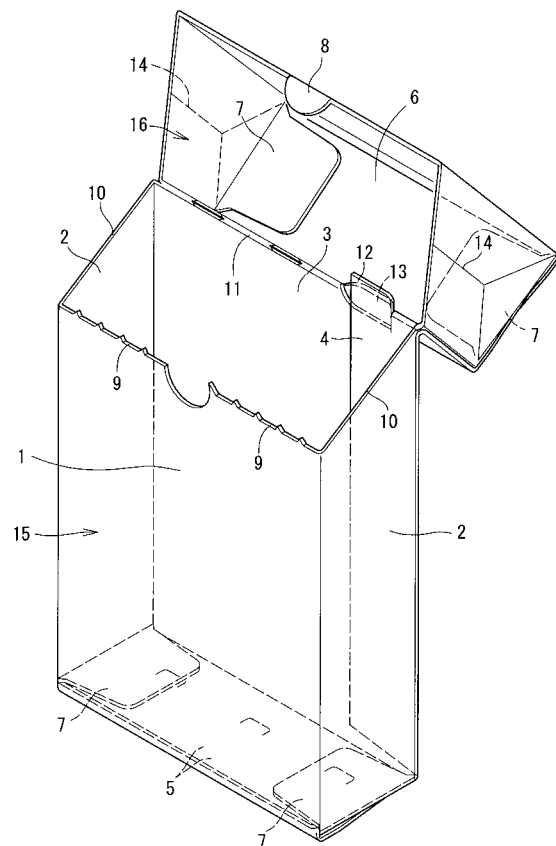
【図 1】



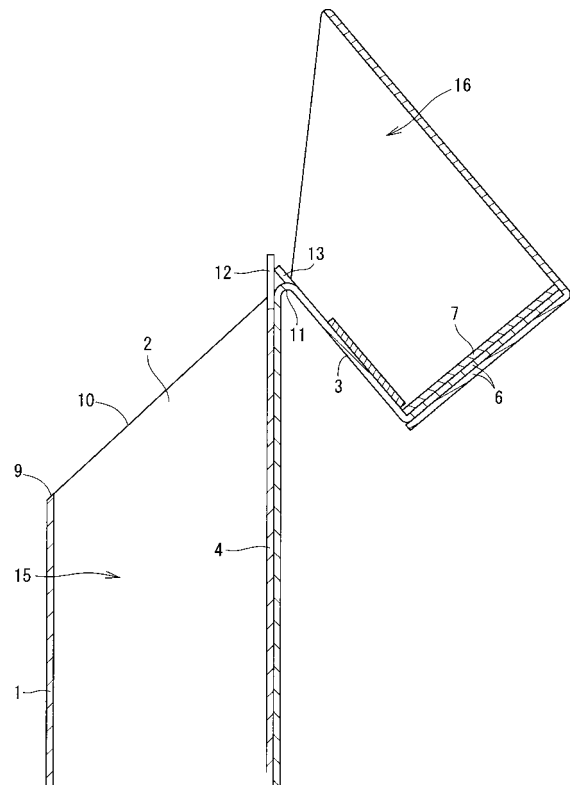
【図 2】



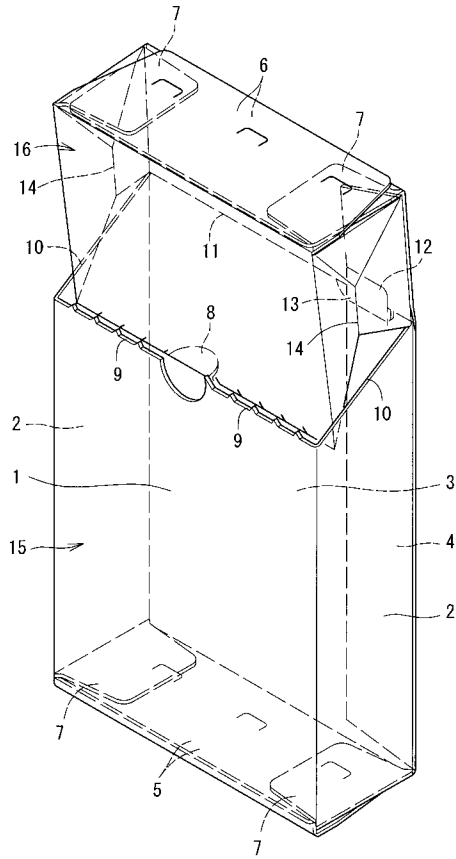
【図 3】



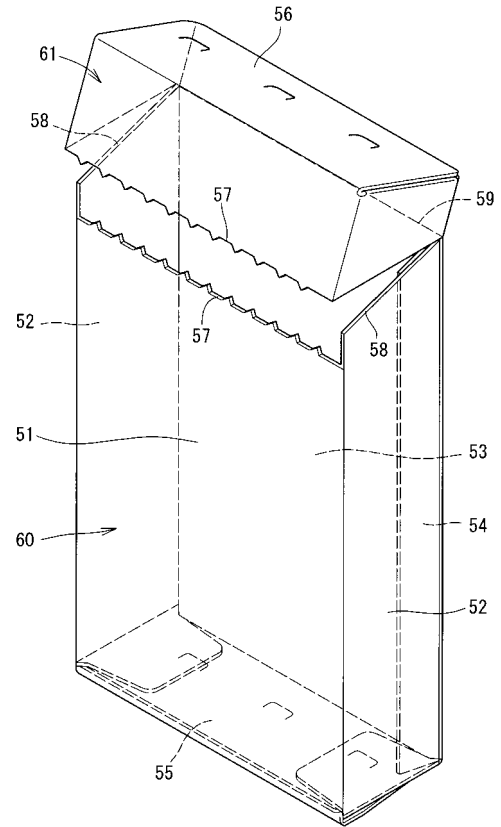
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭54-113827 (JP, U)
特開2001-192022 (JP, A)
特開平09-142453 (JP, A)
特開平10-181739 (JP, A)
特開2003-128055 (JP, A)
実開昭62-127920 (JP, U)
特開平11-321855 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 5/66
B65D 5/54
B65D 77/30
B65D 83/02